

地域の会



▲第72回定例会（柏崎原子力広報センター）



◀第71回定例会
（柏崎原子力広報センター）

CONTENTS

第71回定例会
地域の会第4期スタート2

第72回定例会
東京電力から7号機起動試験の状況及び
6号機の点検状況の説明を受け質疑応答3

発電所を巡る主な動き
地域の会に寄せられた声「みんなの広場」4

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会（毎月1回）
臨時会（必要に応じ開催）
※会は、原則すべて公開。

第71回定例会

地域の会第4期スタート

火災に関する状況説明、対応及び起動試験に関する説明、対応について質疑応答

第71回定例会の概要

開催日	平成21年5月13日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	22名(欠席2名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市(消防本部含む)、 刈羽村、原子力安全・保安院、 保安検査官事務所、地域担当官事務所、 東京電力(株)
内容	●地域の会委員の委嘱・役員選出 ●前回定例会以降の動き ●火災に関する状況説明、対応 ●起動試験に関する説明、対応 ●質疑応答 他



て火災現場に配置されていたのか。
東京電力 危険物使用施設には法律に基づく責任者を置いているが、今回の火災現場は、少量の危険物取扱作業の場であり、法的に義務づけられていないので居なかった。

●火災にレベルづけはあるのか。
柏崎市消防 火事の程度により、全焼、半焼、部分焼、ぼや火災に分類している。発電所構内で発生した火災は全て部分焼またはぼや火災で収まっている。

●ヒーターのベルト火災の原因は、ベルトが切れる前のスリップによる摩擦熱ではないか。
東京電力 ファンベルトが劣化・剥離し、加熱されたヒーターの上に乗ったことで着火しやすい状況になった。メーカーからは、このタイプの空調機でファンベルトの摩擦熱で発火した事例はないと聞いている。

●ファンベルトが回らなければヒーターが切れるシステムに変えたほうが安全ではないか。
東京電力 そのようにするべきであった。今後は直接加熱するヒーターを使わない空調機に変えていきたい。

●消防車の出動台数には、規定があるのか。
柏崎市消防 消防警防規程により、出動体制が決められている。発電所構内で発生した建築物火災は中層建築物火災という分類で、通常10台、30人前後の体制で出動。

●起動試験でポンプを駆動する際、蒸気を止める弁にトラブルが起きた。非常時に炉心に冷却水を注入する重要なものだが、トラブルの原因は何なのか。
東京電力 地震後の点検として弁の調整を行ったが、調整の仕方が悪かった

のではないかと考えている。
Q この設備は起動試験前にも点検を行い、記録は残しているのか。機能的にはどうだったのか。
東京電力 点検は起動試験前にも行っており、動作を確認している。点検記録は残っている。

保安院 今回のトラブルはポンプの緊急停止ができなかったものだが、ポンプは正常に動いており、原子炉を冷却する機能自体は保たれていた。
Q 格納容器に入って確認するということが簡単に出入りできるのか。
東京電力 運転中は入れないが、今回、7号機の格納容器の点検では制御棒を全挿入し、核分裂をすべて止めた上で実施した。

●9件も火災が発生していることから、普通の企業に比べて火災についての考え方が甘いのではないかと思う。細かなところまで気を使った保安体制を整えてもらいたい。
●配線にカバーが付いたり、建物の中がきれいになったのはいいことだが、危機管理がもつとあってもいいのではないか。
●溶接など作業中の火災は、作業者の意識の問題ではないか。作業する人たちが十分に注意して作業するべきである。

●発電を再開したからといって市民の不安が消えたわけではない。震源断層は音波探査によっても特定できなかったと言われている。発電所近傍で断層の存在が疑われているが、このことについてボーリング調査を実施、確認してほしい。
●発電再開の是非がこれまでにない大

トピックス

きな問題であった。地域の信頼を得るためにも今回の起動試験はきちんとやってもらいたい。住民の安心のために試験結果を公表して欲しい。

柏崎刈羽原子力発電所現況視察 起動試験が始まった7号機の運転状況、技能訓練センターなどを視察

日時 平成21年6月12日・13日
視察内容

- ・技能訓練センター(必修訓練室・訓練用機器、必修訓練棟・訓練用原子炉)。
- ・7号機の原子炉建屋、タービン建屋及び中央操作室ギャラリを視察。
- ・視察後、改良型BWRの構造やインターナルポンプの位置、圧力容器に入れる水の量、高圧ケーブルの工事、起動試験で発電された電気、排気筒で調査しているヨウ素の種類、営業運転の判断、6号機の縦揺れのロッキングなどについて質疑応答が行われた。



地域の会の委員は4月末で任期満了となり、今回4期目(任期2年)24名(うち5名が新委員)の委員が選任された。

○委嘱状授与
(財)柏崎原子力広報センター理事長の会田洋柏崎市長より手渡された。「冒頭挨拶」

(会田柏崎市長)新たに委員に選任及び再任された皆様も、引き続き原子力発電所を巡る安全性の確保に向けて議論され役割を果たしていただきたい。

(品田刈羽村長)地域の会が進歩、進化していることの意義を重く受けとめている。判断が下されるプロセスが信頼できるかどうかが大変なこと。

○新野会長、渡辺副会長を再任

東京電力・市消防本部・保安院から「火災に関する状況説明、対応」、新潟県・東京電力・保安院から「起

【質疑応答】

Q 原子力発電所の火災件数が東日本に多い。原子炉の型式に相違があることに関係があるのか。地震の復旧工事が多いことが一因となっているのではないか。
保安院 一機あたりでは、泊発電所(PWR)でも、柏崎刈羽発電所(BWR)でも、火災発生件数が多く、火災件数の多寡は原子炉の型式によるものではない。現場での作業管理が重要である。火災の少ない発電所を参考に、対策を検討していきたい。復旧工事が多いということが火災発生頻度につながることはある。

東京電力 原因のほとんどが工事管理の問題である。他の電力会社の対策を謙虚に学んでいきたい。
Q 危険物取扱主任者が責任者とし

て火災現場に配置されていたのか。
東京電力 危険物使用施設には法律に基づく責任者を置いているが、今回の火災現場は、少量の危険物取扱作業の場であり、法的に義務づけられていないので居なかった。

●火災にレベルづけはあるのか。
柏崎市消防 火事の程度により、全焼、半焼、部分焼、ぼや火災に分類している。発電所構内で発生した火災は全て部分焼またはぼや火災で収まっている。

●ヒーターのベルト火災の原因は、ベルトが切れる前のスリップによる摩擦熱ではないか。
東京電力 ファンベルトが劣化・剥離し、加熱されたヒーターの上に乗ったことで着火しやすい状況になった。メーカーからは、このタイプの空調機でファンベルトの摩擦熱で発火した事例はないと聞いている。

●ファンベルトが回らなければヒーターが切れるシステムに変えたほうが安全ではないか。
東京電力 そのようにするべきであった。今後は直接加熱するヒーターを使わない空調機に変えていきたい。

●消防車の出動台数には、規定があるのか。
柏崎市消防 消防警防規程により、出動体制が決められている。発電所構内で発生した建築物火災は中層建築物火災という分類で、通常10台、30人前後の体制で出動。

●起動試験でポンプを駆動する際、蒸気を止める弁にトラブルが起きた。非常時に炉心に冷却水を注入する重要なものだが、トラブルの原因は何なのか。
東京電力 地震後の点検として弁の調整を行ったが、調整の仕方が悪かった

第72回定例会

東京電力から7号機起動試験の状況及び6号機の点検状況の説明を受け質疑応答

第72回定例会の概要

開催日	平成21年6月3日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	22名(欠席2名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 原子力安全・保安院、 保安検査官事務所、地域担当官事務所、 東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●7号機起動試験の状況及び6号機の点検状況の説明 ●質疑応答 他



東京電力から「7号機起動試験の状況及び6号機の点検状況説明」について説明を受け、各委員から質問及び意見・要望が出された。

【質疑応答】

Q 原子力安全委員会も柏崎刈羽原子力発電所において、現地調査を行っていたのか。

保安院 地震直後や設備の点検時、そして、起動してからは2回、ほかに説明会などで頻りに柏崎刈羽を訪れている。

Q 保安院の起動試験に対する24時間体制の安全確認は現在も続けているのか。

保安院 続けている。

Q 様々な不具合が問題になっているが、発電所が1年10ヶ月止まっていたことによるものか、それとも通常の運転でも起きることなのか。

東京電力 通常の運転でも起こりうることであり、今後とも注意する。

Q 科学の粋を集めた発電所のはずが、人の手で弁を回して壊れたことに驚い

た。どうなっているのか。

東京電力 発電所設備には安全上重要なものから、一般の設備まで重要度に合わせた管理をしている。お尋ねの件は、重要度の低いところで起きた事象。

Q 発電所が長期停止している間、運転員の訓練はどこで行っていたか。

東京電力 発電所の近傍にあるBWR運転訓練センターでトラブル対応や操作の訓練を行っている。今回の起動試験に際しては、7号機の運転員全員が事前に4回の起動操作訓練を実施している。なお、新入社員については、発電所が運転している状態を知らないで、福島第2原子力発電所でパトロールの基礎を学習させた。また、事務本館にも簡単な訓練ができる設備がある。ここでは年間数十日、運転操作の訓練を行っている。

Q 7号機原子炉給水ポンプの電気回路での漏電警報発生とはどのようなことだったのか。

東京電力 数秒間警報が出て復帰したという一時的な事象。揺らしてみるな

どして、確認したところ、警報が出た箇所があり、絶縁テープを巻いて対処した。その後は異常がないことを確認している。

Q 改良型のBWR(ABWR)は、開発時に安全性をどのように考えていたのか。また、PWRとの比較ではどうか。

保安院 PWRとBWRは、どちらもアメリカから導入されたものだが、その後、できるだけ国産化し、安定した品質の良いものにしていくと改良が進められたもの。安全審査ではどちらも十分な安全性を持つていると判断されている。

東京電力 柏崎刈羽原子力発電所では2〜5号機が、作業効率の向上や被ばくの低減等の観点から、1号機よりも改良されている。そして、それらから更に改良されたものがABWRで、6・7号機に採用されている。

Q ヨウ素が漏れた問題について危険性を過小評価しているのではないのか。

保安院 国際放射線防護委員会(ICRP)という組織では、専門家が最新の知見に基づき、中立的な立場から放射線防護についての基準を示している。それから判断すると、今回は健康への影響は全く問題のないレベルである。

Q 微量ならば、人体に影響はないのか。

保安院 放射線量が少ないうちは人体の修復機能が勝っているので影響が出ないということが明らかにされている。ICRPの基準は身体の中での代謝の動き、放射線の種類、そして、その影響をすべて踏まえ設定されたもの。

Q ヨウ素が漏れた原因は何か。

東京電力 ヨウ素はウランが核分裂してできる放射性物質で、燃料棒の製造過程で微量のウランが表面に付着していたことによるもの。柏崎刈羽、福島でも原子炉の水の中には常に同じレベル

で存在する。

Q ヨウ素は微小なピンホールから漏れたものではないか。

東京電力 原子炉内の冷却水のヨウ素濃度が変わらないことから微小なピンホールから漏れたとは考えにくい。

Q 建屋の測量を行っているのであれば、計測結果を出してもらいたい。

東京電力 建屋の変動に関して年に1回測量を実施しているが、潮位や地下水位などで若干差があり、継続的に全部のデータを総合的に判断し評価をしていく予定。

Q 5月22日、送電線から放電現象があった。東京電力の対応について、地元への対処や説明が不十分で、不信感を持った。

東京電力 電気が電線から鉄塔に流れないよう絶縁するが、いしに塩やほこりがつき放電したもの。当日、地元の方から連絡があり現場を確認したうえで、送電線を管理する部署に連絡し、送電を止めて洗浄することを、連絡をいただいた方には説明をした。安全上は問題ないものであったが、付近の住民の方々の不安にさせたかもしれない。十分説明すべきで、今後は、きちんと対処していきたい。

Q 7号機の耐震補強工事の予算は。

東京電力 各プラントで150億くらい。全体で1000億の予算。

Q ロッキング現象とは何か。

東京電力 水平方向の地震動により、上に乗っているものは若干上下にも動くことになり、これをロッキングと言っている。

Q 6号機と7号機は同型だが、6号機にだけロッキング現象が見られたのはなぜか。

東京電力 6・7号機原子炉建屋では、水平地震動の0.3秒付近の周期帯でロッ

キング現象を起こしやすいが、6号機と7号機とでは、東西方向の地震動で違いがあったため。次回詳しい説明をしたい。

Q 複合災害時の防災計画概要を示してほしい。また、防災訓練の実施はどうなっているのか。

新潟県 防災計画について国との最終的な協議に入っている。後日説明したい。防災訓練についても決まり次第お伝えする。

【各委員からの意見・要望】

●地震直後や起動試験時に漏れたとされるヨウ素の量の算定方法、外部被ばくと内部被ばくの影響の比較について、詳しい資料の提示をお願いしたい。

●以前放射線のことについて勉強したが、今後も検討課題にしていきたい。

●専門的な内容はすべての人に理解できるものではない。表現はできるだけわかりやすい方法を考えていきたい。ただし、真剣に発言し回答していることを見せていくことも大切。

●7号機が起動試験を開始してから、大きな問題も起きていない。ただ、細かな点で作業者が間違わないように、作業指導書や要領書を完備してもらいたい。



発電所を巡る主な動き (4月8日~6月3日)

- 4月8日 保安院 東京電力から、新しい検査制度に基づく特別な保全計画を受理
原子力発電設備の保全活動の充実に係る検査制度の導入にもなす1
7号機の保全計画の届出について公表
- 9日 新潟県 技術委員会設備健全性耐震安全性に関する小委員会開催
7号機における「1」建屋の耐震評価データの一部誤りに係る最終報
告について公表
- 10日 新潟県 三者会談知事、柏崎市長、刈羽市長
新潟県、柏崎市長、刈羽市長、安協定に基づく月例状況確認
新潟県、刈羽市長、安協定に基づく月例状況確認
柏崎市長、刈羽市長、安協定に基づく月例状況確認
柏崎市長、刈羽市長、安協定に基づく月例状況確認
- 11日 柏崎刈羽原子力発電所大湊側予備品倉庫における発煙について第
一報公表
- 12日 柏崎刈羽原子力発電所大湊側予備品倉庫における発煙について第
二報公表
- 13日 新潟県 東京電力に対し、柏崎刈羽原子力発電所における火災の対応
を申し入れ
- 14日 保安院 耐震・構造設計小委員会構造WG開催
3号機原子力発電所大湊側予備品倉庫における発煙について公表
「火災発生防止の総合検査計画書の柏崎刈羽原子力発電所への提出について公表
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業状況および不適当について公表
保安院 東京電力から、4月11日に発生した柏崎刈羽原子力発電所予
備品倉庫の空調機火災発生の原因並びに再発防止対策に係る報告書
を受領(4月22日)当該報告書に係る追加対策を受け
柏崎刈羽原子力発電所大湊側予備品倉庫における火災に係る原因お
よび再発防止対策等に関する報告書の経済産業省原子力安全・保安院
らびに柏崎刈羽原子力発電所本部へ提出について公表
- 15日 新潟県 柏崎刈羽原子力発電所本部より、柏崎刈羽原子力発電所
大湊側予備品倉庫における火災の指導結果及びそれを踏ま
えた柏崎市長の意見受理
- 16日 柏崎刈羽原子力発電所大湊側予備品倉庫における火災に係る原因お
よび再発防止対策等に関する報告書追補の経済産業省原子力安全・保安
院、新潟県らびに柏崎刈羽原子力発電所本部へ提出について公表
- 17日 新潟県 刈羽市長から、東京電力の火災再発防止策等を踏まえた意見を
受理
- 18日 新潟県 技術委員会設備健全性耐震安全性に関する小委員会開催
新潟県 東京電力の火災再発防止対策等に関する知事からの下り発表
保安院 柏崎刈羽原子力発電所火災が頻発すること、技術的
火災防止対策について外部専門家による検討委員会開催
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適当について公表
7号機タービン建屋の地震応答解析における耐震壁及び補助壁の取扱
いの不適当に伴う再評価結果等の耐震安全性評価報告書の反映につ
いて公表
- 19日 保安院 柏崎刈羽原子力発電所発生した一連の火災を受け、火災防
止対策の状況確認のため、総務省消防庁及び柏崎刈羽原子力発電所
当該発電所の現地調査を実施
- 20日 保安院 耐震・構造設計小委員会構造WG開催
新潟県 新潟県地域防災計画原子力災害対策編の複合災害に
対応する修正案を取り纏め
新潟県 知事が柏崎刈羽原子力発電所を視察
新潟県 原子力安全・保安院長及び原子力安全委員会委員長に、原子
力発電に対する県民の安全・安心等を確保するための要請書提出
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適当について公表
新潟県 原子力安全・保安院長及び原子力安全委員会委員長から、原
子力発電に対する県民の安全・安心等を確保するための要請書の
回答を受理
- 21日 保安院 耐震・構造設計小委員会合同WG開催
新潟県 知事は、県議会議員協議会原子力行政に関する所信並びに
7号機の運転再開問題の対応方針を表明
新潟県 東京電力に対し、7号機の運転再開について申し入れ
新潟県 7号機の起動試験に際しての県放射線監視体制の強化
保安院 7号機に対する原子力起動時の保安検査及び立入検査等
を開始
保安院 原子力事業者等に対し、原子力施設の耐震安全性の評価に反
映すべきと考えられる新知見を毎年保安院に報告することを求めた
7号機の運転再開の了解について公表
7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況に
ついて原子力の起動について公表
- 22日 新潟県 柏崎刈羽原子力発電所発生した一連の火災を受け、火災防
止対策の状況確認のため、総務省消防庁及び柏崎刈羽原子力発電所
当該発電所の現地調査を実施
- 23日 保安院 耐震・構造設計小委員会構造WG開催
新潟県 新潟県地域防災計画原子力災害対策編の複合災害に
対応する修正案を取り纏め
新潟県 知事が柏崎刈羽原子力発電所を視察
新潟県 原子力安全・保安院長及び原子力安全委員会委員長に、原子
力発電に対する県民の安全・安心等を確保するための要請書提出
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適当について公表
7号機タービン建屋の地震応答解析における耐震壁及び補助壁の取扱
いの不適当に伴う再評価結果等の耐震安全性評価報告書の反映につ
いて公表
- 24日 保安院 柏崎刈羽原子力発電所発生した一連の火災を受け、火災防
止対策の状況確認のため、総務省消防庁及び柏崎刈羽原子力発電所
当該発電所の現地調査を実施
- 25日 保安院 耐震・構造設計小委員会合同WG開催
新潟県 知事は、県議会議員協議会原子力行政に関する所信並びに
7号機の運転再開問題の対応方針を表明
新潟県 東京電力に対し、7号機の運転再開について申し入れ
新潟県 7号機の起動試験に際しての県放射線監視体制の強化
保安院 7号機に対する原子力起動時の保安検査及び立入検査等
を開始
保安院 原子力事業者等に対し、原子力施設の耐震安全性の評価に反
映すべきと考えられる新知見を毎年保安院に報告することを求めた
7号機の運転再開の了解について公表
7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況に
ついて原子力の起動について公表
- 26日 新潟県 柏崎刈羽原子力発電所発生した一連の火災を受け、火災防
止対策の状況確認のため、総務省消防庁及び柏崎刈羽原子力発電所
当該発電所の現地調査を実施
- 27日 保安院 耐震・構造設計小委員会合同WG開催
新潟県 知事は、県議会議員協議会原子力行政に関する所信並びに
7号機の運転再開問題の対応方針を表明
新潟県 東京電力に対し、7号機の運転再開について申し入れ
新潟県 7号機の起動試験に際しての県放射線監視体制の強化
保安院 7号機に対する原子力起動時の保安検査及び立入検査等
を開始
保安院 原子力事業者等に対し、原子力施設の耐震安全性の評価に反
映すべきと考えられる新知見を毎年保安院に報告することを求めた
7号機の運転再開の了解について公表
7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況に
ついて原子力の起動について公表
- 28日 新潟県 柏崎刈羽原子力発電所発生した一連の火災を受け、火災防
止対策の状況確認のため、総務省消防庁及び柏崎刈羽原子力発電所
当該発電所の現地調査を実施
- 29日 保安院 耐震・構造設計小委員会合同WG開催
新潟県 知事は、県議会議員協議会原子力行政に関する所信並びに
7号機の運転再開問題の対応方針を表明
新潟県 東京電力に対し、7号機の運転再開について申し入れ
新潟県 7号機の起動試験に際しての県放射線監視体制の強化
保安院 7号機に対する原子力起動時の保安検査及び立入検査等
を開始
保安院 原子力事業者等に対し、原子力施設の耐震安全性の評価に反
映すべきと考えられる新知見を毎年保安院に報告することを求めた
7号機の運転再開の了解について公表
7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況に
ついて原子力の起動について公表
- 30日 新潟県 柏崎刈羽原子力発電所発生した一連の火災を受け、火災防
止対策の状況確認のため、総務省消防庁及び柏崎刈羽原子力発電所
当該発電所の現地調査を実施
- 31日 保安院 耐震・構造設計小委員会合同WG開催
新潟県 知事は、県議会議員協議会原子力行政に関する所信並びに
7号機の運転再開問題の対応方針を表明
新潟県 東京電力に対し、7号機の運転再開について申し入れ
新潟県 7号機の起動試験に際しての県放射線監視体制の強化
保安院 7号機に対する原子力起動時の保安検査及び立入検査等
を開始
保安院 原子力事業者等に対し、原子力施設の耐震安全性の評価に反
映すべきと考えられる新知見を毎年保安院に報告することを求めた
7号機の運転再開の了解について公表
7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況に
ついて原子力の起動について公表
- 5月1日 保安院 耐震・構造設計小委員会合同WG開催
新潟県 知事は、県議会議員協議会原子力行政に関する所信並びに
7号機の運転再開問題の対応方針を表明
新潟県 東京電力に対し、7号機の運転再開について申し入れ
新潟県 7号機の起動試験に際しての県放射線監視体制の強化
保安院 7号機に対する原子力起動時の保安検査及び立入検査等
を開始
保安院 原子力事業者等に対し、原子力施設の耐震安全性の評価に反
映すべきと考えられる新知見を毎年保安院に報告することを求めた
7号機の運転再開の了解について公表
7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況に
ついて原子力の起動について公表
- 6月1日 新潟県 柏崎刈羽原子力発電所発生した一連の火災を受け、火災防
止対策の状況確認のため、総務省消防庁及び柏崎刈羽原子力発電所
当該発電所の現地調査を実施
- 2日 保安院 耐震・構造設計小委員会合同WG開催
新潟県 知事は、県議会議員協議会原子力行政に関する所信並びに
7号機の運転再開問題の対応方針を表明
新潟県 東京電力に対し、7号機の運転再開について申し入れ
新潟県 7号機の起動試験に際しての県放射線監視体制の強化
保安院 7号機に対する原子力起動時の保安検査及び立入検査等
を開始
保安院 原子力事業者等に対し、原子力施設の耐震安全性の評価に反
映すべきと考えられる新知見を毎年保安院に報告することを求めた
7号機の運転再開の了解について公表
7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況に
ついて原子力の起動について公表
- 3日 保安院 耐震・構造設計小委員会合同WG開催
新潟県 知事は、県議会議員協議会原子力行政に関する所信並びに
7号機の運転再開問題の対応方針を表明
新潟県 東京電力に対し、7号機の運転再開について申し入れ
新潟県 7号機の起動試験に際しての県放射線監視体制の強化
保安院 7号機に対する原子力起動時の保安検査及び立入検査等
を開始
保安院 原子力事業者等に対し、原子力施設の耐震安全性の評価に反
映すべきと考えられる新知見を毎年保安院に報告することを求めた
7号機の運転再開の了解について公表
7号機 新潟県中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況に
ついて原子力の起動について公表

※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分 ■色は東京電力の動き ■色は行政の動き

地域の会に寄せられた声 みんなの広場

自然エネルギーの活用を

柏崎市 榎並 杏子さん

地球温暖化を食い止められるか否かは、人類が生存
でき得るか死滅かという問題です。
いま瀬戸際の危機にあつて、自然現象から持続的に
得られる新エネルギー(太陽光・熱、風力、水力、地熱、潮
力等)への転換に、先進国が真剣にとりこんでいます。電
力に占める新エネルギーの導入目標ですが、ドイツは来
年12.5%、英国は来年10%、米国でさえ2012年に10%導入(オバマ大統領
のグリーン・ニューディール政策)を掲げています。一方、日本は2014年に1.63
%と1ケタ少なくて、これには驚きます。
日本の温暖化対策は原発中心で、2030年に電力供給の49%を原子力発
電で賄う計画で、このために自然エネルギー開発が異常に立ち遅れていると
のことです。
原子力はクリーンなエネルギーなのでしょうか。原発から出る核廃棄物の安全
な処理方法がないこと、事故による急性死・潜在的ガン死などの人的被害や水・
食物・土地の環境汚染の深刻さを考えると、私にはどうしてもクリーンとは思え
ません。また、日本列島が大地震の活動期に入っており地震が相次いでいること。設計
寿命30年の原子炉を60年に延ばして使おうとしていること。危険なプルニウム
を含むMOX燃料のプルサーマル発電を、来年までに3基、6年後には全国16~18
基で始めようとしていること。これらを考えると私の不安は大きくなるばかりです。
再処理・高速炉建設を米国は4月に断念しました。日本政府もこの路線に転換
して、原発依存を縮小して、自然エネルギーの比重を高めてほしいと願っています。
朝日新聞に「核兵器生まぬトリウム炉検討を」という京大の先生の寄稿が載り
ました。長期的には太陽光などの非発熱型エネルギーが主軸になるべきだが、そ
れまでの過渡期には原子力が必要で、豊富でより安全なトリウム原発の研究開
発をという主張でした。他の専門家のご意見もお聞きしたいです。

自分でできることは自分でやろう!

—— 電気も同じ ——

柏崎市 新澤 秀樹さん

何を思ったのか今から5年程前に、自宅に8kwの太
陽光発電と、720wの横にクルクル回るジャイロ式風
力発電機「そよかせ君」を設置しました。その時、朝8
時から夜10時までは28円/kwで、夜10時から朝8時
までは6円で電気の売買契約をしました。晴れた日などはかなりの量を28
円で売電しております。
5年前と違い現在はエコエネルギーとして太陽光や風力などの自然エネ
ルギーに国としても真剣に取り組みはじめています。設置時の補助金が国、
県、市合算で50%を超える例もでてきました。さらに、電気の売買価格がド
イツ並みの50円になるとの話もあり、もしそうならば何と5~10年で元
がとれ、それ以降は延々と発電した分だけ儲けになります。ローンを組んで
も十分有利な話ではありませんか。今、こんな時代がよつとしています。
世の中、一般論として「自分でできることは自分でやる」というのが、自
立した大人の健全な生き方だと思われれます。でもまさか「自家発電」なんて
今までは考えられませんでした。しかし、今は違います。
柏崎の将来を考えて「原発に過度に依存しない地域社会の将来を考え
よう」と思っても具体的なイメージがわからない方がいらっしゃるかもしれません。
ぜひ想像してみてください。「発電所所長」になり、電力会社に売電する「企業家」
になった『あなた』を。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。
宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。

委員交代のお知らせ

金子彰夫委員が5月27日をもって委員を退任されました。
後任として、三井田徳之助氏が5月28日付けで委員に就任されました。

今後の「地域の会」定例会の開催案内

第75回定例会

日時:平成21年9月2日(水)午後7:00~
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

第76回定例会

日時:平成21年10月7日(水)午後6:30~
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、
詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。
傍聴はお気軽にお越し下さい。

編集後記

一昨年の中越沖地震に加え、
昨秋からの世界同時不況で
柏崎・刈羽地域の経済も大き
な影響を受けています。
最近のリサーチ会社等の情
報をみると、知っている会社
が多く、工場や企業は永遠に
続かないのかなと感じてしま
います。
しかし、公営復興住宅の完
成も間近、仮設住宅から新居
へ。原子力発電所は、7号機
の営業運転への移行・6号機
の起動試験承認へと進んでい
ます。又、来年には新潟工科
大学に原子力耐震・構造研
究拠点を設置する話も進ん
でいるようです。
暑くなつて来ますが、頑張
りましょう。
(運営委員 二宮)

地域での会ではホームページで活動の全てを公開しています。
ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、
資料をダウンロードすることもできます。
また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>